

国政活動最前線!

厚生労働委員会の委員じゃない
(国土交通委員会の委員)のに、質疑に立った!

2016年5月11日 **厚生労働委員会質疑
レポート追加 拡大版!**

衆議院議員

荒井さとし という政治家

セイジカは偉い人? 遠い人??

あなたの認識がくつがえる!? 母子家庭育ち、
実直でひたむきな現職7期目・荒井さとしの
人物像に迫る!



荒井さとし事務所では若者への学びの機会提供と、開かれた政治の実現のため、毎年「議員インターン」の受け入れをしている。

札幌市白石区選出の山口かずさ市議が学生時代に荒井さとし事務所にインターンに来たことがきっかけで、政治の道を歩み始めたのは有名な話。

この写真は、東京国会事務所でのインターン生との懇談のひとつ。大人でも遠いところの話だと感じる人が少なくない、政治の世界。荒井さんの気さくな性格と庶民的な感覚に驚く学生も多いのだとか。

なお、2016年に北海道の国会議員事務所を受け入れをしたのは荒井さとし事務所だけだったそう。



荒井さとし・プロフィール

石狩郡当別生まれ。12才で父が死去。母子家庭で育つ。札幌市立豊平小学校・札幌市立八条中学校卒業・札幌南高校・東京大学農学部を卒業後、農林水産省入省。1979(昭54)年、外務省出向。スリランカ駐在、北海道知事室長を経て、1993(平5)年、日本新党より立候補し、衆議院議員に初当選。その後、民主党結党に参加。民主党政権では総理大臣補佐官・内閣府特命担当大臣(国家戦略・経済財政政策等)の要職を歴任。民主党「原発事故収束対策プロジェクトチーム座長」を経て、被災者に寄り添った「子ども・被災者支援法」を全会一致で成立にこぎつける。「政治とは弱きものに光をあてるもの」を信念に、平和外交と格差社会の是正を訴えて現在7期目。



札幌の豊平区と白石区と清田区には、
荒井さとしという政治家がいます。

今、7期目。政治家になって23年。
この地域ではもっとも長く
衆議院議員をやっている政治家です。

そのわりには地味なので、
あまり知られていないかもしれません。
でもそれは、地味でも必要な
人々の役に立つ、
地道な仕事に真摯に取り組んできたから
かもしれません。

荒井さとしをすでに知っている人も、
知らない人も、
荒井さとしという人が
いったいどんな政治家なのか
探ってみませんか？

最近の国会に見る

政治家 荒井さとしの働き

公式ホームページ[活動レポート]より

2016/5/11

▶ 「医療的ケア児」支援が大きく前進！

厚労委員会での塩崎大臣との議論

超党派「永田町子ども未来会議」で、自民党の野田聖子さんや木村弥生さん、民進党の細野豪志さん、公明党の山本博司さんらと奮闘してきた「医療的ケア児」を支援するための法案がこの日の厚生労働委員会で審議採決されました。歴史的な日です。

医療的ケア児をとりまく現状と将来的な課題について、きちんと国会の場で論戦し、今後の大きな流れを変える一里塚として議事録に記すことが重要と考え、私は厚生労働委員会に所属する委員ではありませんが、わが党の西村ちなみ筆頭理事にお願いして、厚労委員会での質問時間を頂戴しました。

地域における“医療・福祉・教育”の連携支援の構築に向けて、政府や塩崎厚労大臣の大変前向きなご答弁を頂くことができました。

本法案は既に衆議院本会議を通過し、参議院での審議を待つ状態であり、今国会で成立の見通しとなっています。

(5月19日現在)



以下、少々長くなりますが、国会でのやり取りをできるだけ正確にお伝えするため、議事録より抜粋して、質疑のハイライトをご報告致します。

[障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律及び児童福祉法の一部を改正する法律案]

荒井委員(以下、荒井) 私は厚生労働委員会の委員ではないのですが、きょうは、医療的ケアということが今回の法案で初めて定義をされました。私は、画期的な事項だというふうに評価をいたしますとともに、この問題がなぜずっと放っておかれたのか、そしてこれからどういう方向性で制度の設計なりをしなければならないのか、それが結果的には医療ケア児を抱える親御さんの安心につながっていくのだという、そういう気持ちで、きょうは無理を言ってここに立たせてもらいました。

塩崎大臣とは、原発の国会事故調の法案をつくるときに御一緒させていただきましたが、また全く違う立場できょうは議論をさせていただきたいというふうに思います。

まず、この写真を見てください。これが全てだというふうに思います。この写真の親御さんは、社会的な地位のあ



て、世界じゅうのお金持ちが、この小児科医療あるいは周産期医療のために日本に訪れているという状況であります。

しかし、その結果何が生まれてきたのかというと、昔であるならば残念ながら死んでしまっていたお子さん、生まれたとき、昔、お医者さんは、赤ちゃんの足を持って、お尻をぼんぼんとたたくんですね、そして、おぎゃあと声がすれば、ちゃんと呼吸ができる子供さんだということで、よかったですねということですが、ぼんぼんとたたいて、息がされていないお子さんは、残念でしたという形で扱われていたのが普通でありました。しかし、最近では、そういうお子さんでも、人工呼吸器をつけると、ちゃんと生きていけるんです。

この写真をもう1回見てください。ここの喉についているのが人工呼吸器の装着部分です。夜寝るときに、この真ん中に人工呼吸器があり

る方であり、財産もお持ちの方だと私は思います。私財のある方であろうかと思えます。しかし、その方が、これは自分のお子さんですけれども、このお子さんを預かってくれる保育園を探すのに、東京じゅうを歩き回って、そして、たった一カ所だけ東京にあった。そこの保育園に通わずために、そのお母さん一家は移転をしたということなんです。

今、日本は、小児科医療と周産期医療は世界じゅうで一番進んでいると言われていています。今や、妊娠しているときに、おなかの中にいるお子さんがもしかしたら障害児かもしれない、そのための治療も可能なぐらいに。そし

ますけれども、これを装着しないと呼吸できないんです。そして、このおなかの中にあるのは胃瘻です。栄養をここから直接胃に送る装置であります。これがなければ、この子供は栄養補給ができないんです。こういう子供が、今、年間数千人生まれているんです。かつては、この子供たちに対する支援というのは行政の中でそれほど必要とされていなかったのだというふうに思いますけれども、**医療の進歩あるいは生命の尊厳**さ、そういうものを大事にしていこうという動きが大きくなつて、この子供たちが生まれてくるようになり、成長するようになったんです。

しかし、その負担はどこに来ているかという、お母さんです。先ほど、そのお母さんが東京都内を走り回って保育所を探した、たった一カ所だけその保育所があったと言いました。

私、この間の2014年の選挙、やっとこさっとこ当選をして、東京に戻ってまいりました。そうしましたら、私の息子が、おじは成長戦略だとか経済政策だとかTPPだとか大きな話ばかりやっているけれども、本当に制度のはざままで苦しんでいる人たちのための仕事をするべきじゃないかというふうに説教されました。そして連れていかれたのが、フローレンスというNPOを運営している駒崎弘樹君がやっている、ヘレン*という施設でありました。そこで会ったのがこの子なんです。

全国でたった一つですよ、こういう子供を預かってくれる施設は。そして、少し大きくなりましたので、ヘレンでも扱いに困って、普通の保育所に行ってくださいと言われたそうであります。

普通の保育所に行くのに、探しましたら、保育所で、看護師さんをつけてくださいと。看護師さんを探すと、月50万かかると。いかにそのお母さんでも難しいとあって、そして悩んでおられたときに会いました。

この制度のはざままで揺れている医療ケア児、これを何とかしなければということで、2015年の2月に研究会を発足することにいたしました。普通、政治家がやる勉強会というのは超党派の勉強会というのはなかなかやらないんですけれども、そういう勉強会をやって、これは専門的な知識が必要だからということで、小児科医の前田先生というこの世界では神様のような小児科医。あるいは、たった一つのこのNPOをやっているフローレンスの駒崎君。さらには、霞が関の中で関心を持って

今、文科省に出向している佐々木室長であります。さらには、教育にも大きな関係があるだろうということで、文科省のしかるべく人をお願いをして、若手の官僚を出してもらいました。齋藤室長という方でありました。

これらで約1年間かけて熱心に研究をいたしました。私は、この難しさ、あるいは医療的ケア児というのが、この中でも知っている方はほとんどいないと思うんですけども、その方々に対応するためには特別立法が必要なのではないか、議員立法をしようかということまで考えたんですけれども、今回、塩崎大臣が大胆に、今度の改正法案の中に医療的ケア児という言葉を超えて新たに定義をし、そしてこの対策を推進していくことを宣言されました。私は物すごく大きな評価をするところであります。

余り褒めると私の党から怒られるかもしれませんがけれども、久しぶりに、霞が関、特にこの厚労省関係の委員会がしょっちゅう対立をしている委員会の中で、私たち野党も賛成をする方向で取りまとめた法案の1つでございます。

塩崎国務大臣/厚生労働大臣(以下、塩崎大臣) 先ほどお話がありましたように、荒井議員とはいろいろな問題で御一緒にやってきたことが多々ございますが、今回、医療的ケアが必要な子供さんたちの問題についても問題意識の共有をさせていただけるということは、大変ありがたいことと思っております。

今般の改正で、医療的ケアが必要な障害のあるお子さんやその御家族を、病院とかあるいは入所施設だけではなくて地域でもしっかりと支えられるような体制、保健、医療、福祉などの関係者の連携体制を構築することを、**地方公共団体の努力義務として規定**することにいたしました。

こうした法律上の規定の創設によって、都道府県や市町村において、医療的ケアが必要な障害のあるお子さんやその御家族が地域で安心した生活を送ることができると、支援体制づくりを積極的に進めていただきたいというふうに考えておまして、厚労省としても、全国のそれぞれの都道府県の担当が集まるような会議において、好事例の提供や意見交換などを通じて**自治体の取り組みを促進**してまいりたいと思っております。(中略)

今回のこの法律改正に加えて、そういった方々の医療情報を全国どこにその子供さんが行ってもわかるような仕組みを考えられないかということ、今、実は厚生労働省の中で検討させているところでございませ



いる若手の官僚。厚生労働省では、村木事務次官(当時)をお願いをして推薦してもらいました。津曲室長です。それから、これは小児医療と密接な関係がありますから、医政局にもお願いをしました。

*2014年杉並区にオープンした日本初の障害児専門保育園。今年、池袋に二園目を開設。

て、これは、先生や、私どもの自民党でいえば野田聖子さんなどが熱心に取り組んでいることから刺激を受けて、そのようなことをさせていただいているところでございます。

荒井 この研究会には、野田聖子さん、それからここにおられる木村さん、それから宮川さん、あるいは公明党では山本さんなどが熱心に、必ず参加をしていただくという形で会を進めてまいりました。

* * * *

荒井 インクルージョンという考え方が相当普及してきたという定着してきたというふうに思うんですね。障害を持たない人たちも、障害を持っている人たちも、ともに地域で生活をしていく、ともに支え合っていく、それが社会なんだ、そういう考え方が普及しつつある。

私は、この医療ケア児もまさしくその対象なんだろうというふうに思うんですけれども、今後とも文科省には今進めている方向をもっと大々的にやってほしいと思うんですけれども、決意を込めて政務の方から御意見をいただきたいと思います。

義家 文部科学副大臣 医療ケアが必要な生徒児童を含め、障害のある子供たちについて小中学校の通常学級での受け入れを進めることは、**インクルーシブ教育システムの理念からも重要**であるというふうに考えております。

このため、小中学校での通級による指導等のための教員定数の拡充、医療ケアのための看護師を初めとする多様な専門家の配置の促進、小中学校において日常生活の介助等を行う特別支援教育支援員の配置のさらなる促進、通常学級における障害者理解の推進等を図っているところでありますが、今後とも、こうした取り組みを通じ、障害のある子供たちの通常学級での受け入れを含めた教育環境の整備に全力を尽くしてまいりたいと思っております。

* * * *

荒井 ところで、親御さんたちの話を聞くと、一番大変なのは、やはり相談の窓口がなかなかないということです。大体、障害児じゃないとか、何とかの対象になっていましてとかとって窓口をたらい回しにされる。これはお役所仕事で、根拠法令がないとそんなふうになりがちですから、今回、こういう法律をつくられましたから、各自治体もそれなりに整備をしていく、またそれをウオッチする必要があります。相談窓口の話なんです。

もう一つは、彼女たちが、休む場がない、子供たちをショートステイでもいいから預かってほしいと。今全国で一カ所、これはふやしていく努力はするんでしょうけれども、一気にふえないですね。そうすると、8000人の親御さんたちは常時子供さんについていないとだめなんです、手を離しちゃって呼吸できなくなるという子供さんを面倒を見ているわけですから。ショートステイできるようなそういう施設がどうしても必要だと思うんですけれども、これらについて、これは厚労大臣にお聞きしようかな。

塩崎大臣 医療的ケアが必要な障害のあるお子さんの在宅生活を支えるためには、当然、今お話が出たショートステイみたいなものがちゃんとバックアップとしてある、あるいは、いろいろな相談、調整を行わなければならないわけで、それをコーディネートする役割の人が必要だということは、今先生の御指摘のとおりだと思っております。

平成28年度から、短期入所事業所をふやすために、新規開設事業者を対象として、既存施設の取り組みの好事例等について講習会の実施などの支援をやっていくということにしています。それから、コーディネーターを養成するための研修の実施を、障害者総合支援法に基づく地域生活支援事業のメニューに追加するというのをやる。

さらに、平成28年度診療報酬改定においても、医療型の短期入所サービス利用中の医療処置などについて診療報酬を算定できるということを明確化したところでございます。(中略)

いずれにしても、厚労省が預かる保育の世界における看護師の配置についてもお話がございました。いろいろな議論が今、実はこの問題について行われているところでもありますので、私どもも、今回この児童福祉法に位置づけた限りは、やはり実態として本当に**医療的ケア児の子供さんたちが、普通の、言ってみれば他のお子さんたちと同じような暮らしができるように心を砕いていかなければならない**というふうに思います。

* * * *

質疑の様子は衆議院TVの動画ライブラリーで視聴できます。2016年5月11日の厚生労働委員会で検索してください。

<http://www.shugiintv.go.jp/jp/index.php>

議事録や委員会配布資料、永田町子ども未来会議の概要と開催履歴などの詳細資料は公式HP活動レポートで公開中。

政治家 荒井さとしの動き

公式ホームページ[活動レポート]より

2016/4/18

▶ 石狩湾新港LNG新火力発電(北電)の工事現場視察

月曜日の午前は5区補選の打ち合わせや会議が続きましたが、上京までの数時間を縫って、石狩湾新港に建設中のコンパインドサイクル方式のLNG新型火力発電所を視察しました。

元々、農水省技監(農業土木技術系の官僚)だった私は、とにかく現場ならではの 空気が好きで、新技術に触れるとワクワクします。技術の革新は目覚ましく進んでいますが、技術者と言葉を交わすと昔の血が騒ぎます。



建設中のLNGタンク内に入ることができたのは初めてで、大変貴重な経験です。パテントの技術流出を防ぐため、内部は撮影禁止となっており、様子をお見せできないのが残念ですが、直径90mの巨大な構造物の基礎コンクリートを一夜にして流し込んだとの事。均一性を保つためですが、この規模の床面積で、で24時間以内に一気に コンクリートを流し込む工事は、道内ではこれまで事例がないそうです。

石狩湾新港は、遮るもののない強風が吹きさらす砂上の平地で、冬季には工事が中断され、春を待っての再開となります。今回の視察も、雪が溶けるのを待って、ようやく本日実現。生憎の悪天候でしたが、発電所の土木工事や取排水設備の基礎杭打設、地下40mの立坑や 国内最大級23万キロリットル、高さ60mのLNGタンクの内部に入って敷設現場などを見せていただくことができました。

国際情勢や国内事情に対応できる生きた政策をつくるためには、とにかく色んな現場を歩いて見るのが肝心だと常日頃より考え、実践しています。

昨年8月から本格着工し、来年2019年2月に本格稼働予定とのこと。原発事故後、老朽火力をフル稼働しながら、電力需要のピークを迎える北海道の冬を乗り切り続けていますので、約60万kwの大型火力の稼働に大きな注目と期待が高まっています。

“机上の論理” ではなく 現場主義



- ・優れた環境特性(燃烧時にSOxやばい塵が発生しない)
- ・ガスタービンを回転させた排熱で蒸気タービンをまわすコンバインドサイクル発電方式
- ・電源の多様化
- ・優れた運用性(既存火力に比べて起動時間も短く、安定性が高い)

発電所をつくるというのは、まさに一大プロジェクトだということを改めて感じました。藪所長をはじめ、北電の皆さん、現場でご対応いただいた技術者の皆さん、本当にありがとうございました。エネルギーミックスや北海道のエネルギー需給政策、系統運用を考える上で、大変参考になりました。



▶ 2016/3/14 都立光明特別支援学校を視察(永田町子ども未来会議)

昭和7年に日本で最初の肢体不自由特別支援学校として開校した、都立光明特別支援学校訪問し、授業の様子を視察しました。自主自立のための豊かな教育方針で、日本でも有数の先進的な特別支援学校として全国から注目を集めています。

政治とは、 弱きものに 光をあてるもの

通常は国会議員は地元にいる月曜日ということで、超党派の「永田町子ども未来会議」のメンバーのうち、自民党の野田聖子さん、木村弥生さん、公明党の山本博司さん、私の4名が参加。霞が関からもチームが訪れ、総勢20名ほどでの視察団となりました。

この日は、3つの授業を参観し、児童生徒たちとの触れ合いを大切にしました。まず「ポッチャ」とよばれる障害者スポーツに活発に取り組む姿では、児童生徒の元気な笑顔が印象的でした。パラリンピックの正式種目でもあるボールゲームで、集中力がが必要です。

また図画工作や、高等部では支援機器を活用したパソコンでのビジネス文書作成の様子も見学。見本を見ながら、ワープロ検定3級程度の文書を作成していくのですが、なかなかのスピードに驚かされます。

その後、保護者や常勤看護師、保健の先生なども含む教職員スタッフとの意見交換では、三者それぞれの問題意識に端を発する忌憚ない議論が白熱しました。当事者それぞれからお話を聞かせて頂く機会はあるけれども、医療的ケアを必要とする子どもや障害児を支える保護者・学校・医療関係者が一同に会して、それぞれの

視点からの意見を拝聴する機会は大変貴重でした。

文科省や厚労省の担当官も熱心に耳を傾け、公立学校への看護師配置事業など新たな施策を説明したり、今後の小児在宅医や看護師教育などの制度づくりにおいて課題を整理していく必要性に言及がありました。

また通学により得られる同世代の子どもとの関わりが改めて大切だと感じました。一方で、学校でも保護者の付き添いが必要とされる現状に、特に思春期の





子をもつ保護者からは、母子が離れる時間も必要だという声が聞かれました。

この「母子分離」の問題や入学後の「送迎」の問題など、保護者が日々直面する様々な課題を伺いました。医療的ケアが必要な生徒にかかわる教職員からは、医師が常駐す

る医療現場ではないが故の難しさなど、現場での声を伺いました。

制度設計と現場運用の齟齬が生じるポイントについて、利用者としての生の体験談を聞かせて頂いたり、現場が最も必要とする支援制度についての理解を深めることができました。

本日の視察で伺った問題点や課題をしっかりと国会へ持ち帰り、必要とされる施策・法整備へとつなげられるよう引き続き取組んでいきます。

久しぶりに作られた
カラー名刺

荒井さとしを伝える
荒井さとしを知る
いろいろ刷新！
民進党はじまる！



事務員とボランティアの手によって
みなさんにご案内が送付されます。



民主党が民進党に変わり、これ
を機に名刺やリーフレット、ウェブ
サイトをアップデート。
随時リリースしていきますので、
楽しみに。

「荒井さとしを伝える」をサポート プロたちの視点

新しい名刺やリーフレットの制作にあたった
彼らの目に映った荒井さとしは!?

カラー名刺・リーフレット表紙
メイン写真撮影担当
フォトグラファー

Barry Ashworth

1968年、オーストラリア出身。母国グリフィス大学芸術学部卒業。商業写真を中心に活躍の後、ライター通信の特派員としてフォトジャーナリストに転身。中東始め、世界各地で取材を経験。仕事中に足に銃弾を受け、負傷。療養を兼ねて日本へ。関東、道北、道東を経て札幌在住。作品はTime life, Black & white BBC News, New York Timesなどに掲載。在日7年目。近年は北海道の自然の美しさと厳しさを描いた作品を発表している。



健全な政治におけるリーダーシップには、まず人々の参加、かつ透明性、信頼性が不可欠です。良いリーダーシップとは効果的かつ公平なもので、法と幅広い人々の総意によるものです。ここでは政治的、社会的、経済的な優先順位は、より弱い立場にある人々の声が開発や資源分配の割当決定に反映されるべきです。

荒井さとし氏のように**有権者に寄り添う政治家**(代議士)のリーダーシップなしには、人々が社会問題解決のために乏しい社会資源を有効活用することさえも困難です。すべての社会的不平等を洗い出し、参加型の政権と健全なマクロ経済運営を進めていくためには、荒井氏の「**より良い社会づくりのための政策と使命感**」が不可欠です。彼が人々の声を代表することで、公的資金活用における透明性の維持—すべての分野における成長と共に、公共事業があらゆる人々に滞りなく行き届くように促す—が実現できるのではないのでしょうか。

優れたリーダーシップにおいては、有権者は自身の基本的人権を有し、偏りのない司法制度と、効率的で信頼できる議会が実施されます。持続可能かつ公平で社会正義的な経済発展を望むなら、まず私たちが直面している**問題の根幹を理解する政治家**を代表として選ばなければなりません。政治家(代議士)とは「様々な人々の声の政治的な表れ」であり、人々を助けるために必要なことを理解し、健全な政治運営の原則に従って活動するものです。その人こそが、マイノリティをはじめとする社会において最も脆弱な声もしっかりと受けとめ、彼らのために戦い、すべての意思決定プロセスに人々の声が反映されることを可能にするのです。

荒井氏は有権者の声をしっかりと聞き、対話を通じて受け止める能力に長けています。彼が人々によりそった社会的平等にむけた意識を高めることは、政策決定の場においても鍵となります。荒井さとし氏のように、**市民と国を繋ぐことができる政治家**(代議士)がいるというのは幸運なことです。彼はすでに農業、保険、教育などの諸分野とつながっているばかりでなく、私たちの市民がすでに獲得した明確さ、透明性を政府において実現するために戦うでしょう。

[原文] Leadership through good governance is, among other things, participatory, transparent and accountable. It is also effective and equitable, promoting the rule of law and ensures that political, social and economic priorities are based upon a broad consensus from society making sure that the voices of even the most vulnerable are heard in decision making and the allocation of development resources.

Without good leadership through a representative like Satoshi, who is in touch with the needs of his constituency, the scarce resources that are available generally are not used efficiently in combating social problems. His policies and commitment to the greater social good are necessary if all aspects of social inequalities are to be addressed and also facilitate participatory policies as well as sound macroeconomic management. Having his representation will ensure the transparent use of public funds that will encourage growth of all sectors as well as help promote effective delivery of public services to benefit all.

Good leadership offers the electorate the enjoyment of fundamental human rights, independence of judiciary, parliamentary

accountability and efficiency. Electing a representative who is in touch with the ground root problems facing us is the most important precondition to economic development with sustainability, equity and social justice. Our representative is the peoples voice in the political form, he understands what is needed to help people and follows all the principles of good governance. He is a person who listens and fights for the views of minorities and enables the voices of the most vulnerable in society to be fully heard and considered in all the decision making processes.

Being able to listening and have discussions with the voters brings to the forefront his increased awareness within the population of the benefits of certain policy measures as he seeks to maximise social equality. Having a representative such as Satoshi who strengthens the relationship between the government and the public is more than a basic need, he is the fundamental link between the various public sectors such as agriculture, health, education and above everything he will fight for a government that is as transparent as its people are.



カラー診断+スタイリング担当

パーソナルカラー診断士
スタイリスト(和洋装)
クローゼットプロデューサー

村田 いずみ

札幌生まれ、札幌育ち、札幌在住。OLを経て、資格を活かしてスタイリストに。似合う色/スタイルを診断する傍ら、ファッションの棚卸をサポート。『似合うを増やすお手伝い』をモットーに活動中。夫、2歳の女の子の3人暮らし。日当たりの良い二世帯住宅に住むのが夢。

地球と暮らしを守るには良い政治が必須と頭では分かっているけど、難しいから考えられない、おかしい法案は誰かが止めてくれるだろう、などと、どこか他人任せにして逃げ腰でした。

ご縁あって荒井先生のパーソナルカラー診断などをさせて頂いて、気さくなお人柄にふれ『**何でも話せる部活の顧問**』のような温かくて素敵な方という印象を受けました。と同時に**こんなに一生懸命私たちの為に頑張って**

くれている政治家が居るんだ!と感動し考えることから逃げていた自分を反省しました。

奥様はじめ先生の周りの方々も温かくアットホームな感じで初めて事務所にお邪魔したにも関わらず楽しく仕事が出来ました。恥ずかしながら世の中の仕組み・制度や問題など分からないことだらけなのでこれから少しずつ学んでいく所存です。

追記: チーム全体が荒井さんの事を大好きで、みんなが荒井さんの良さを知ってもらいたい、応援したい! という思いが部外者の私にひしひしと伝わって来ました。それだけ素敵な方なんだな、と自分で直接感じただけでなく、間接的にも感じました。

ディレクション+デザイン担当

コミュニケーションデザイナー

山中 緑

1976年、山形生まれ、北海道オホーツク育ち。北海道武蔵女子短期大学卒業後、21歳の時に荒井さんのリーフレット作成をきっかけにデザインの道へ。単身渡米し、アートセンターカレッジオブデザインにてデザインを学ぶ。大手広告代理店Ogilvy and Matherのブランディングチームにてインターン、インタラクティブデザイン会社HelloDesignにてリードデザイナーとして勤務ののちに独立。2013年、14年に及ぶアメリカ修行を終えて帰国。8歳の娘を持つシングルマザー。娘は母以上の“荒井さとしファン”。



19年前、荒井さんは、大した実績もない21歳の私にリーフレットを作らせてくださいました。それだけでも、今考えると驚くことですが、私はそのリーフレットの表に“4歳の荒井さんの写真”を使用しました。政治家のリーフレットに「本人とわからない写真」を使うなんて、一般的には考えられないかもしれませんが、荒井さんは笑って承認してくれました。それほどに、荒井さとしというひとは、**柔軟で、クリエイティブで、若い感性を信じてくれる、若者にチャンスを与えようとする政治家**なのです。

政治の世界は保守的で、外から見てると面白く感じられないかもしれませんが、しかし、だからこそ出来ることも、変えていかなければいけないこともたくさんあると思います。そういうことを、荒井さとしというひとりの政治家を通して、私は政治に関心の薄い人たちに伝えていきたいと思っています。

19年前に荒井さんへのインタビューをもとにまとめたコピーです。荒井さんはずっと今も、この通りの想いで走り続けているのだと感じています。

きっと僕たちは、僕たちの意思で
社会を変えていける。
誰のせいでも、誰のおかげでもなく、
僕たちの手で、僕たちの社会に。
大丈夫、きっとできる。



荒井さとしさんのポスター用写真撮影時に、メイクを担当させていただきました。わたしにとってメイクアップは人とのコミュニケーションにおいて、最大のツールです。メイクすることで、触れることで、その人のココロに、見る人のココロにあたたかな色がともるような、そんな仕事をしていきたいと思っています。

また若い学生の教育を通じて社会に僅かばかりでも貢献したいという気持ちもあります。荒井さんとは、撮影で初めてお会いしましたが、**静かな強さとしなやかさ、包容力と芯の**

強さを持つ方、という印象を持ちました。

今のわたしの年齢からこの先を考えると、とても厳しい時代に生きていていると感じています。国が向かう先が見えない、ということが一番大きな不安でもあります。情報や物に溢れた中にありながら必要な情報が届かないことが多い。わたしたちは正しい選択をできているのか。そんな中、一番たしかなものは人と人との繋がりがだと思っています。地域から広がるたしかな繋がりが少しずつでも輪になって温度の感じられる情報交換ができる世の中であってほしいと思います。



調査・企画・取材撮影担当

VOALNTI(ヴォランテ)代表

フォトグラファー

小森 学

1975年、北海道大樹町生まれ。高校在学中より写真を志し、札幌の写真専門学校にて撮影技術及び写真表現を学ぶ。札幌市内の広告写真撮影スタジオにて撮影アシスタントとして勤務ののち、カメラマンに。2004年に独立。現在は広告撮影・取材撮影を中心に活躍中。公益社団法人 日本広告写真家連盟 APA 会員。学校法人 美専学園にて講師を務めるほか、100歳の姿を撮り続けているパーソナルワークが今年写真集となって発売予定。

仕事柄、多くの人を撮影してきました。もちろん政治家も。ファインダーを覗き、構図を決め、耳で被写体の言葉を聴き、タイミングを計りシャッターを押す。ただ写すのではなく、表情に想いがあるのかを見極め、写真に収めてゆきます。その一連の作業を冷静に繰り返し撮影をしていると、人柄が垣間見えてきます。

志や情熱、優しさがあふれてくることもあります。本音と建前や利害への思惑も見えて、本質的に信用できる人かどうかを撮影の最中に考え、釈然としなくなることもあります。

今春から荒井さんを撮影させて頂く機会を得て、新春の集いから撮影をしてきましたが、多くの支援者に囲まれた荒井さんからレンズを通して見えるのは、**誰が為に身を粉にする実直さと人間味。**

政治家とは、市井の人の代表であり、社会と生活を見る目線は、我々と同じ高さから見ているのだ。と、本来の姿を再確認させて頂きました。

荒井さんは、頼り無さげとか華がないと言われることがあります。それは、一切の**虚栄を排した自然体**の人間、荒井聡として勝負ができるという自信の現れかもしれない。と、感じました。

我々の想いを託せる人と信じております。

メイク+撮影アドバイス担当

メイクアップアーティスト

Miki Sano

1964年、北海道長万部町出身。国内外化粧品企業勤務後渡米。LAにて映画メイク、特殊メイクを学び帰国。ポートフォリオ、舞台、映画、ブライダル、フェイス&ボディイベント、広告など幅広く活躍。2009-2011ベトナムホーチミン市に赴任、専門学校の立ち上げに関わる。現在は札幌市内専門学校にてメイク講師も勤める。趣味はyogaとオリジナルコスメカラー制作。獅子座のA型。



荒井さとしを知る

様々な立場からの視点



2014年12月・冬の総選挙

Facebookに寄せられた応援の声！

ここで紹介している内容は、選挙中にFacebookに投稿された応援メッセージの一部です。
#荒井さとしを応援で検索してください。現在もご覧いただけます。

私が国会議員とよばれる人にお会いしたのは、この方が2人目です。国会議員としてお会いしたというよりは、大好きな方のお父さんとしてお会いしたと言った方がいいのかしら。

場所は、福島市飯坂町にある清山という温泉旅館。震災後、山形へ避難していた私は、山形道を抜け、飯坂まで車を走らせました。震災前からの友人、まりっぺとチカちゃんに「ミキティママ、芋煮会あるからおいで！」と呼ばれて子どもたちを連れて出かけていった先に、この方がきてくださっていたのでした。

芋煮会とは、東北地方、主に福島、山形、宮城で、河原や公園で里芋入りの豚汁のようなもの(地方によって味や具材が違います)を作って、おじいちゃんから子どもまで、地域のみんなで食べるという秋の行事です。

この日の芋煮会は、福島のこれからをみんなで語る会のこと。いつかまたみんなでいまでのように芋煮会ができるように願いをこめてこの名前になったそうです。

福島の芋煮会に来てくれた荒井先生は本当に優しく気さくな方でした。国会議員という看板を背負っていらしたというよりは、福島を想う**ただ一人の人として、ただのおっかさんである私とも真っ直ぐに向き合い、共に考え、語り合ってくださいました。**

荒井先生は福島第一原発事故で苦しんでいた私たちのために「子ども被災者支援法」という法律を作ってくださいました方のお一人です。この法律は私たちにとって大切な理念が明確に記載されています。

それは、あのとき福島にいた私たちが、「どの選択をしても幸せに暮らせるよう、国が責任を持って支援していく」という大きな理念。



「福島に暮らし続ける」「福島から避難をする」「避難したけれども、また福島へ戻る」そのすべてを受け入れ、国が私たちを守っていくことを約束してくれる法律です。その想いを、ああして福島に何度も足を運んでくれたからこそ入れてくださったんだらうなあと、今も心から感謝しています。

写真は私が作った山形風芋煮。福島の芋煮は豚肉の味噌味ですが…。

札幌はきっと雪が降っていて寒いだろうから、少しでも温まるようにと願いをこめて…。

北海道3区(札幌市豊平区、清田区、白石区) #荒井さとし さんを応援しています

2014.12..08

山形避難者母の会代表
Cooking Studio I-e 主宰
福島在住 中村 美紀



衆議院選挙、終盤の情勢がいろいろなメディアで出ていますが、どうしても当選して、国会議員としての活動を続けてほしいのが、北海道3区から立候補している荒井さとしさん。

原発事故子ども被災者支援法は、荒井さとしさんがいなければ生まれなかったと思います。原発問題で荒井さんと接して、**政党ではなく、政治家という人間の熱さや見識が現実を一步一步動かすのだ**と感じました。

北海道で投票権がないのが残念です。



ふるさと納税みたいに、好きな選挙区をもう一つ選べたら良いのと思うくらいです。北海道の有権者の方、ぜひ荒井さとしさんにまた国会で仕事ができるように応援よろしくお願いします。

北海道3区(札幌市豊平区、清田区、白石区)
#荒井さとしさんを応援しています。

荒井さん、がんばってください!

2014.12..12

弁護士

東京在住 大城 聡

札幌在住の大学生時代(諸事情あって8年間も住んでいて、今も札幌に住みたいな、と思う)、高校生の時から政治の世界に興味があった僕が友人の伝で飛び込んだのが、荒井さとしさんの事務所(今は息子が親友)。

「興味があるんだけど・・・」

と電話してから、2週間ほど選挙事務所で寝泊まりして、ピラ撒きだったり、選挙カーに乗ってカラス(ウグイスの男バージョンね)やったり、と貴重な経験をさせてもらいました。

それからも事あるごとに荒井さんとお話する機会があったんだけど、**「政治家というのはこうも世の中を考えてるものなのか」とマスコミが伝える政治家像とは全然違った印象**を受けたことを覚えています。

で、今回の衆議院議員選挙。

マスコミ報道も手伝って、かなりの与党優勢な状況。

こうなると小選挙区制の特徴として、一気に片方に寄ってしまうと思われ、野党にいる色々な優秀な方々も危ないわけです。

ここは何としても荒井さんに頑張っていただかないと・・・!

札幌在住のまだ投票先を決めてない方、よろしくお願いしますね^^

北海道3区(札幌市豊平区、清田区、白石区) #荒井さとしさんを応援しています

2014.12..09

会社役員

新潟在住 皆川 暁洋



いよいよ4日後は選挙ですね。

◆
議員インターンシップでお世話になった #荒井さとし さんが出馬されます。今回の衆院選では、取り組む政策のひとつに「子どもの貧困対策」を掲げてくださいました。

荒井さんのお父さんは学校の先生でしたので、教育分野には非常に高い関心を持っておられます。

これだけ厳しい戦いの中、「貧困」「格差」といった日の当たらないところに目を向けてくださることに感謝します。

◆
人間味のある政治家はなかなかいません。いい意味で、荒井さんは**政治家らしくない政治家**です。

インターン時代に感じたのは、荒井さんを応援する人は「民主党の荒井さとしを応援している」よりも、「荒井さとしという人柄を応援している」という方が多いということです。

私たち学生や若者とは、いつも同じ目線で話をします。写真は私たちインターン生が主催した、学生交流会の様子です。何も政治に興味のなかった学生が、ここに来



て政治に興味をもち、いまや若者と政治を結ぶNPO活動の中心にいます。

これは個人的な思いですが、「子どもの貧困」対策のためにも、「若者」の声を反映した政治のためにも、私は荒井さんにはぜひ国会に戻ってほしいと思っています。

そして、豊平区・清田区・白石区の学生や若者は、ぜひ一度荒井さんの政策を見ていただきたいです。

政策はこちら↓

https://www.arai21.net/2014_seisaku.html

◆
投票行動は各候補の政策を見比べて、自分で決めてください。「XXXに投票してください」とは言いたくありません。投票権は20歳をすぎた僕たちに与えられた、命と同じくらい価値のあるものです。最後に一言。

投票に行った帰り道の、飯はいつもよりうまい。

2014.12.10

学生 札幌在住 岡本 卓也

本日、荒井さとし候補の選対事務所に応援に行ってきました。マニフェストがどうのとか、政策がどうのとかきつと大事なんでしょうけど、この候補とどのように関わったのか、どんな話をしたのかのほうがもっと大事なのではないかと思っています。

結局、政治も人と人との繋がり。荒井さんには札幌に来たときに声をかけてもらったり、福島で飲む機会があったりと接点がありました。

民主党だから、政策がどうだからではなく、**荒井さんだから応援したい**と思います。

応援したい政治家がいるってのはほんと有権者冥利につきますね。

住んでいる地域が選挙区ではないので荒井さんに投票できないのが残念でなりませんが、気持ちだけは届けてきました。

北海道3区(札幌市豊平区、清田区、白石区) #荒井さとし さんを応援しています

2014.12..12

自営業 札幌在住 伊藤孝介



あしたは選挙ですね。

わたしは、北海道3区の荒井さとしさんに1票入れたい。

困っている人に必要な制度を作ることのできる、みんなのお父ちゃん。

わたしがいま元気に行われるのも、会社を始めるきっかけになったのも、間違いなく彼のおかげなのです。

そんなお父ちゃんにはぜひ当選してほしい。

そして、みんなにやさしい社会をどんどん形にしてほしい。

彼を選べる選挙区の人がうらやましいなあと心から思います。

がんばれ荒井さんー！

――

北海道3区(札幌市豊平区、清田区、白石区) # 荒井さとし さんを応援しています

2014.12.13

社会起業家 福島在住

日塔 マキ



父が雪の選挙を戦っています。北海道3区(札幌市豊平区、白石区、清田区)の荒井さとし(民主党)です。

父が政治家になりたいと言った日を思い出します。私は高校生でした。父は47歳の公務員。いいんじゃない?と言った私と兄の返事に、緊張していた父は、少し驚いた顔をしてから、そうか、ありがとう。と嬉しそうに笑いました。

ホッとしたのか、色々話をしてくれました。祖父が若くして急死した後、祖母が父を含めた三兄弟を育ててくれたこと。その際に沢山の人達が温かく守ってくれて、とても嬉しかったこと。仕事で行ったスリランカで見た、戦争によって失われた町。地図からも人々の記憶の中からも消えてしまう現実。

「戦争がない国を作りたい。貧しい子どもが未来をワクワクしながら待つような国を。日々を一生懸命に生きている人が報われる国を作りたいんだ」

青臭い学生でも照れてしまうような言葉を、父が言うと何故かすんなり心に入

ってきました。「日本は、もう戦争なんかしないよ」と皮肉屋の私が言ったら、本当だね。嬉しいね、と笑った気がします。

青臭い言葉は選挙にはとても弱く、利権を求める大人達の波に揉まれながら、父は20年戦ってきました。それでも政治のやるべきことはこれだけだ、と父はまっすぐ自分の言葉を吐けるべく走り続けています。

数年前なら青臭い、と笑っていられた父の言葉は、今では私の切実な願いになってきました。

北海道にお知り合いやお友達がいる方は是非荒井をよろしくと声をかけてください。

公職選挙法上、電話、Facebook、Twitter、LINE上のメッセージでの連絡はOK、メール、ショートメールではできません。

どうぞよろしくをお願いします！

――

北海道3区(札幌市豊平区、清田区、白石区)
#荒井さとし さんを応援しています

――

2014.12.10

自営業 横浜在住

舟橋(旧姓:荒井) 裕美子

父の選挙を文字通り全面的にサポートしている兄です。父の選挙を手伝ってくれている若い人達は、ほとんど兄のお友達で、父の地元の方から、優ちゃん、優ちゃんと可愛がってもらっています。サラリーマンなのに、選挙になると何度も東京から札幌にやって来て、会社や、家族に申し訳ないくらいです。一見社交的ですが、私の知っている人の中で誰よりも繊細な心を持っているんじゃないかと思っています。

昔、父は、数百票差*で落選したことがあります。圧倒的有利だと言われた現職の議員だった父が負ける、それはもう次がない、と思われてもおかしくないことでした。父は沢山のマイクの前でうなだれ、力不足で申し訳ない、と頭を下げていました。父の目の中には、次の文字は見えず、私にも、もう引退するつもりなんだろうと分かりました。

家族のところに戻り、父がもう諦めようと思う。今まで、本当にありがとう。と父が言う。「諦めちゃだめだよ、数百票、僕が集めるから。諦めちゃだめだ！」兄は泣きながら父に言いました。頑張ったからしょうがないよね、と言う言葉を沢山かけてもらっていた父は、驚いていました。「そうか」と父は言っただけでした。

落選から復活当選した選挙も、圧倒的な選挙も、比例代表でなんとか受かった選挙も、いつも兄は東京と札幌を往復しながら、時には一ヶ月近く詰めて選挙の弱い父を支え、兄に思いを託された父はただひたすらに走ってきました。

兄が父に何を託したのかは分かりませんが、父が**議員だったからこそできた法案**が沢山あるのは事実です。介護法案、確定拠出年金、改正NPO法、福島子ども被災者支援法、サハリンとのピザなし渡航…。**地味だけれど、必要としている人が助かるような法案**ばかりです。

父も兄も人の前に出て自分や親の名前を連呼することが好きなタイプではありません。でも、議員ではないと変えられないことがある、とわかっているのかもしれませんが。ちなみに皮肉屋で臆病な私は、いつも傍観していました。兄に引張られるように手伝ったこともありますし、もう勘弁してくれ、と引きこもったこともあります。それでも、今は自分の出来る限りの応援をしよう、と思っています。子どもの親になったせいか、政治によって優しい方向にも行くなれば、危険な方向にも行く

こともあるんだ、と恐怖を感じたせいかもしれません。

大切なお友達に政治的なメッセージばかりだして恐縮していますが、10年後、20年後も平和な日本であるように祈りをこめて、書かせてもらいました。

長文にお付き合い頂きありがとうございます。

北海道3区(札幌市豊平区、清田区、白石区) #荒井さとし さんを応援しています

2014.12.13

自営業 横浜在住 舟橋(旧姓:荒井) 裕美子



*1996年の衆議院選挙、実際には2,800票差で次点。(51,479票獲得)

なぜ、父、荒井さとしの選挙をここまでやるのか。

そういう思いを書こうとおもったら、妹の裕美子に書かれてしまいました。。。1996年の選挙で僅差で負けた時、大学2年生の僕は家で泣いて訴えました。「もう一度やる、と言うべきだ」と。

父は決断をしてくれて、でもそこからの浪人時代の4年間は、息子から見ても悲惨なものでした。

事務所はカラオケボックスの2階の奥にある小さな場所になりました。そこを拠点に父は母と地域を回る4年を費やすことになりました。僕と妹が大学生。父は50代前半の働き盛りの時の事です。

その状況を見て、「やってほしい」と言った言葉を何度後悔したことか。

だからこそ、父が旗を立て続ける限りは、僕は最大にして最高の支援者の1人であろうと誓って今回の選挙を望みました。

2014.12.13

法人役員** 東京在住 荒井 優



**所属・役職は投稿当時

政治家・荒井さとし、どう思われましたか？素朴で地味な政治家ですが、しっかりとした信念と強さを持っていると感じてもらえたのではないのでしょうか。そして、多くの人に愛されていると。荒井さとし事務所と荒井さとしを応援している勝手連ではいろいろな情報をインターネットでも発信しています。日々の細かな情報はもちろん、まとまった活動レポートなど、ぜひご覧ください。

荒井さとし公式アカウント



#荒井さとし事務所



#SatoshisatoshiA

はじめました！

勝手連アカウントのご紹介



#荒井さとしを応援し隊



#SatoshiOuen

<https://www.arai21.net>

*この他にも勝手連アカウントがありましたら、ぜひお知らせください。

政治とは
弱きものに
光をあてるもの。

荒井さとし後援会事務所

〒062-0932

札幌市豊平区平岸2条6丁目1-14 三慶ビル1F

TEL :011-824-9520 ㄥ

Email :satoshi@arai21.net

民進党